

世界の国々から日本の位置を説明しよう

秋田県 湯沢市立湯沢東小学校 鎌田 功

1 はじめに

学習指導要領では、5年生の内容に「ア 世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土」が付加された。この学習では、世界のなかの日本というものを意識づけることを根底においた学習が展開されなければならない。これをふまえて6年生では、さらに世界と日本を結びつける必要がある。

地図学習では、大人であっても「地球儀」より日本中心の「メルカトル世界地図」が頭に浮かぶ。そこで、6年生で世界を意識するために「日本とつながりが深い国々」の単元の導入で「地球儀」の有効的な活用を視野に入れた学習計画をたてた。

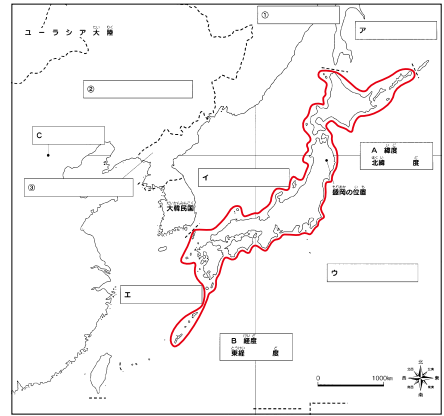
2 日本の範囲と国土の広がりをとらえる

学習の導入では、既習内容の確認から入る。しかし、日本の端の確認では、国土の領域についても簡単に触れておきたい。竹島や尖閣諸島を含めた境界について、国際的な問題があること、北方領土問題についても昨年の学習を想起させ日本の広さについて感覚的にとらえさせたい。

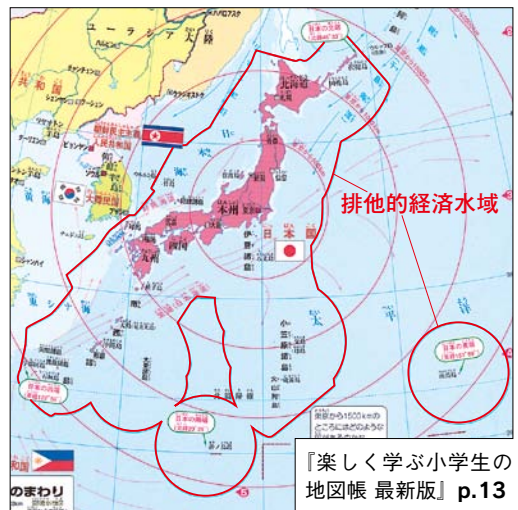
はじめに、日本の端を地図上で確認する前に「日本の範囲はどこまでだろうか」と子どもたちにたずねた。

すると、ワークシート上では北海道・本州・四国・九州・沖縄のまわりを線で囲む子どもが多かった。そこで『楽しく学ぶ小学校の地図帳 最新版』（以下、地図帳）p.13を開かせ、

排他的経済水域を含めた日本の端から端までの範囲を確認したところ、それまで「狭い」と発言していた子どもが「こんなに広いの？」と驚いたようだった。



ワークシートの記入例 児童が記入した日本の範囲 赤



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.13

コンクリートで囲まれた沖ノ鳥島の必要性も国境を考えるうえで子どもたちにとって貴重な事象である。

地図を見て、日本の周りを東西南北にわけながら説明できるようにした。とくに秋田県という地域性だろうが、東シナ海を含めて南西方面の理解が弱い。沖縄本島までの2000kmを秋田県を中心として改めてコンパスで円をかいてみる。そうすることで日本のおおよその広がり理解できたようである。秋田県から沖縄の距離とロシアや中国内部までの距離

が等しいことがわかり、驚きの声が上がった。

「あなたが日本の周りを東西南北に向かって飛行機で進んでいくと、何が見えてきますか」という発問で、日本の周りのとらえ方が弱い子どもたちにも、海洋や方角を押さえ近隣の国に気づかせた。

3 日本の位置をほかの国の人に説明しよう

「日本とつながりが深い国々」の2時間目の授業では、地球儀や地図を使っての基礎的な資料を効果的に活用し、調べたことを的確に表現する力や、事象について根拠を示しながら表現する力を育てたいと考えた。

まず、社会的にみて日本とつながりが深いと考えられる国をあげてみる。地図帳のp.71の図も使用した。すぐに中国、韓国やアメリカ合衆国の名称は出てくる。ほかにサウジアラビア、ポルトガル、イギリスなど10か国程度の名称も出てきた。

世界のなかの日本を考えさせるために、世界の国々からみえる日本という逆の発想で考えさせた。「あなたがその国に行って、その国の人に日本の位置をどのように説明すればいいだろうか」という課題を出した。まずは身近な「中国」からみた日本の位置を考えることにした。

中国からみた日本は、大陸の東にあること、日本海を挟んでいるということが出た。地球儀の中国の上に顔を置き「何が見えてくる？」と東側を眺めさせた。それで日本海が意識され、その向こうに日本の存在を感じるようになる。地球儀ならではの感覚である。

さらに、『地球上の日本の位置』を説明するときに必要な条件を地図を見て考えさせた。何を説明すればいいのか、今回の授業の評価基準としての内容にもかかわることだからで

ある。

- ・その国からみた方位
- ・緯度と経度について比べてみる
- ・国を結ぶ海洋や大陸など
- ・日本に行き着くまでの周辺の国々

海流や気候なども出たが、位置の説明には必要ないという考えで、上の4点に絞った。

このやりかたで、グループごとに地球儀を使って、両国をテープなどで結びながら日本の位置を説明していった。「ブラジルから見ると、日本は西にあり、太平洋のはるか向こうにある。地球の反対側にある」という説明が出てきた。平面の地図だけでは出せない言葉である。言語活動の面からも、しっかりと文章に表させたいと考えた。



授業のようす

4 まとめ

この後、日本と関係の深い国々を学習していくことになるが、地理的感覚および地球感覚とは、方位と距離、広さなどの感覚を鍛えることにある。日本中心の世界地図の学習だけでは、それらを育てるには限界がある。今回のように地球儀も使用して、自分の目をその国の上空に置き、広い視野で見つめなければならない。国土や世界に対して理解を深めるには地図や地球儀は必要な教具である。外国語の学習の時間でも、地図帳や地球儀を置いて授業を進めていくことも考えられる。日本を中心に考えるだけでなく、地球感覚で社会的な見方・考え方を育てていきたい。